広告　企画・制作｜読売Palette東海

技術と人間力を備えた、多くの人材を建設業へ。それが、専門学校の役割。

建設業はICT化が進み、技術も働く環境も大きく進化しました。その一方で、建築や土木がどんな役割を果たし、暮らしに貢献しているかは、十分知られているとは言えません。より多くの若い世代が建設業に目を向け、仕事として選択するには何をするべきか。建設に関する専門技術・知識を備えた人材を育成している教育現場から見た答えを、東海工業専門学校金山校校長の成田節雄さんに伺いました。



次の時代を担う人づくりについて、熱く語る成田校長

教育の現場から考える、建設業の課題とは。

建設業が抱える課題の一つに「若い人たちに仕事の重要性が十分に知られていない」ということがあります。水道をひねって水が出るのも、車や電車、バスで移動できるのも、すべて建設業がインフラを整備しているおかげです。

しかし、それがあまりにも当たり前になっているため、普段はそのありがたみに気づきにくい。

災害などが起きて初めて建設業の価値を再認識するという現状があります。だからこそ、自分たちの暮らしを支えている仕事という魅力や誇りを若い人に伝え、将来を託す職業として建設業を選択する道を示す必要があります。これは教育に携わる東海工業専門学校金山校（以下本校）の役割でもあると考えています。

整えているのは、次世代のプロを育てる学びの環境。

「建設」と一口に言っても、目の前に素晴らしい建造物が見える「建築」と、トンネルや道路、地下構造物など、見えないところでインフラを支える「土木」では、人材の流れが少し異なります。土木・測量分野は厳しい状況である反面、建築分野は人気が高まり、若い人たちの流入も堅調です。

こうした状況の中、本校は建築から土木・測量までを網羅した学科編成を展開し、どちらの分野にも次世代のプロフェッショナルを輩出できる環境を整えています。

また、建築ライセンス本科（2年課程）では、愛知産業大学造形学部建築学科との併修により、これまでに1000名を超える学生が大学卒業資格を取得。専門技術と大卒資格の双方を得られる点は、学生一人ひとりの大きな強みになっています。



東海工業専門学校金山校 校長
成田 節雄氏

難関の資格に合格した多くの人材を、建設業へ。

建設業において、資格は「仕事をする上で欠かせない」とも言える重要なもの。企業からの期待にもつながるため、本校では資格取得を強力にサポートしています。

その結果、今年度の1級建築士の学科試験で過去最高となる17名の合格者を輩出。2級建築士は毎年100名以上の合格者を出し、合格率は約80％に達しています。

また、施工管理技士の資格取得にも注力し、建築、土木とも1年生で2級施工管理技士（一次）、2年生で1級施工管理技士（一次）に挑戦するカリキュラムを展開。1級土木施工管理技士（一次）の合格率は今年度81・8％を記録するなど、戦力として活躍する多くの若い人材を建設業界に送り出しています。



東海工業専門学校 金山校

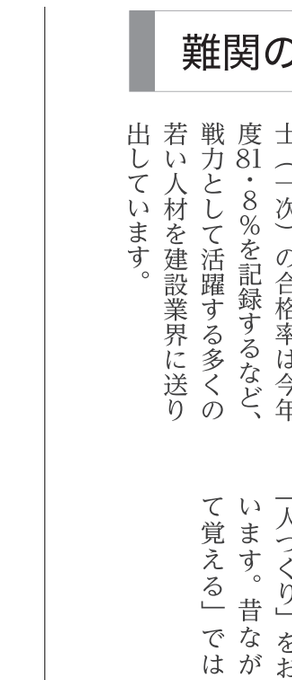
1961年に設立。65年以上の歴史の中で46,000名以上の卒業生が巣立ち、全国の建設業を支えています。900名以上の在学生は、建築工学、インテリアデザイン、建築設備などを学ぶ建築系の7学科、土木工学、測量設計などを学ぶ土木・測量系の4学科で専門技術や知識を習得します。資格取得にも定評があり、1級建築士、2級建築士、1級施工管理技術検定（建築・土木・管工事）第一次検定、測量士・測量士補などの資格試験に多くの合格者、取得者を輩出。毎年、多くの卒業生を建築・土木・測量関連企業、自治体などへ送り出しています。

これからの建設業を支える人づくりを推進。

本校では、建築、土木に関する知識や技術に加え、学生たちには「人間力」、つまりコミュニケーション能力の大切さも伝えています。どれほど優れた資格や技術を持っていても、実際の現場では作業員の方々、近隣住民や施主の方々と円滑に話できなければ良い仕事はできません。

また、企業に対しては、採用したら終わりではなく、現場で大切に育てる「人づくり」をお願いしています。昔ながらの「見て覚える」ではなく、若い人たちを根気強く教育し、定着させていく取り組みは、これからの建設業を見据えると非常に重要だと思います。

建設業のイメージ改革や人手不足の解消に特効薬はありません。本校は専門技術と確かな人間力を備えた人材を着実に社会へ送り出し、未来への架け橋になるように今後も取り組んでいきます。





測量用のドローンを使った授業

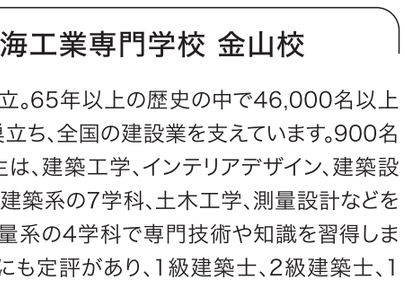
企業のニーズを見据え、建設業のICT化に対応する力を養成。

近年、建設業界においてもICTの活用が進み、作業の効率化、省人化が進められています。こうした状況に対応するため、本校でも3DCADや、測量に活用するドローン、3Dレーザースキャナー、GNSS（Global Navigation Satellite System／全球測位衛星システム）といった先進技術に関する教育を実践しています。

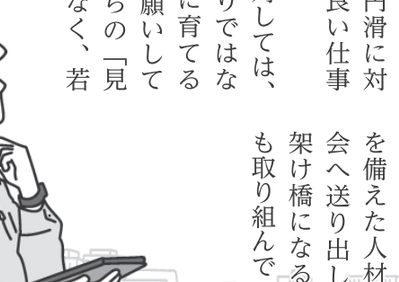
例えば、建設業界で活躍する卒業生やパートナー企業に協力を仰ぎ、現場で使われている機材を使って実演。学生にとっては「プロの技術」に触れる貴重な機会になっています。また、工業高校の先生を招いて最新技術に関する講習会を開催するなど、地域の建設教育底上げを目指した取り組みも行っています。

『建設業だからできること』が合言葉!～土のうつくり体験～

災害への関心を高めていただくため、会員企業による高校生の土のうつくり体験や愛知県職員による災害出前講座を実施しています



土のうつくり体験（2025.10.7）



災害出前講座（2025.10.27）

『地域の安全・安心のために』!～防災体制の強化～

行政機関等との災害協定に基づく訓練に積極的に参加し、防災体制の強化を図っています



排水ポンプ車操作訓練（2026.6.11）



照明車操作訓練（2026.6.22）

※上記の詳細やその他活動内容については、当協会ホームページをご覧ください

法定外労災補償制度 諸費用補償（企業防衛） 建設共済保険



新設 保険金区分 最高 7,000万円 に増額（従来5,000万円）

経営事項審査において 15点の加点 になります

さらに新しくなった! 建設共済保険制度の 10のポイント!

安心を、未来への希望に。

法定外労災補償制度 諸費用補償（企業防衛）
建設共済保険

https://www.kyousaidan.or.jp/
建設共済保険　検索

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業
被災者（死亡および身体障害・傷病3級以上）の子供に対して、要保育期間および小学校から 大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業
① 安全衛生用品の頒布
② 女性専用トイレ・更衣室導入費用に対する助成
③ 安全衛生推進者表彰　等

詳しくはホームページをご覧下さい
正確な掛金の試算や資料請求はこちらまで
公益財団法人 建設業福祉共済団
〒105-0001　東京都港区虎ノ門1-2-8　虎ノ門琴平タワー11階
■取扱機関：一般社団法人 愛知県建設業協会

地域社会から信頼され、評価され、必要とされる建設業へ

会長 髙柳充広　副会長 徳倉克己　副会長 松野篤二　副会長 近藤純子
副会長 加藤徹　副会長 難波陽一　専務理事 三宅勝敏

一般社団法人 愛知県建設業協会　名古屋市中区栄3-28-21　電話〈052〉242-4191　https://www.aikenkyo.or.jp/